

**CONTENTS**

- 活動報告・各種会議議事録
- 会員異動
- 学会関連カレンダー
- 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ 改訂4版2018」出版のご案内
- 日本農薬学会第43回大会の御案内
- 平成31年・32年度日本農薬学会役員選挙について

平成29年度 第3回常任評議員会議事録

日 時：平成29年9月9日(土) 13:00～15:15頃

場 所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：出席者14名(含第43回大会副実行委員長), 欠席者4名

議 事：

I. 平成29年度第2回常任評議員会議事録の確認

II. 経過報告および議案

1. 財務関係

- ・平成29年度収支の現状(1月1日～8月31日)について報告があった。
- ・環境委員会支出, 国際学術交流費, 事務管理費支出について報告があった。

2. 編集委員会

- ・JPS42巻4号と和文誌43巻1号の発刊予定について報告があった。
- ・平成29年9月までの投稿審査状況の報告があった。
- ・Taylor & Francisからの出版は見送ることとした。
- ・掲載料金の変更の会員への連絡方法を決定した。

3. 環境委員会

- ・「農薬を知ろう」Webサイトの保守体制について説明があった。
- ・残留分析セミナーの関東・関西での開催予定が報告された。
- ・「残留農薬分析 知っておきたい問答あれこれ」の

編集作業の経過報告があった。

- ・1名の講師派遣を行った。
 - ・新しい委員会名称について環境委員会で確認後, 次回常評で決定する。名称変更に伴って, 専門委員会規程の改正を行う。
4. 将来計画委員会
- ・特になし
5. ホームページ委員会
- ・研究奨励金受給者リストをホームページに掲載する。
6. 学会賞受賞者選考委員会
- ・学会賞受賞者選考について, 報告があった。
7. 植物保護科学連合
- ・シンポジウムの開催が12/2に決定した。
8. 日本農学会
- ・9/11に運営委員会が東大で開催され, 次回常評で報告する。
9. 公益法人農学会
- ・農学教育に関するアンケートについて, 依頼があった。
10. 農薬科学研究奨励金について
- ・農薬科学研究奨励金の交付申請について, 要項の修正が報告された。
 - ・交付申請書を改訂した。
11. 学術小集会関係
- ・学術小集会委員長との懇談会での資料の確認を行った。
12. 学会表彰について
- ・終身会員, 顧問への推挙について, ポイント集計表をもとに決定した。
13. 40周年記念事業関連
- ・アーカイブ化について要旨集(大会, 小集会)を8月下旬に業者に引き渡した。
14. 第43回大会関係
- ・大会準備の進捗状況について報告があった。
 - ・組織委員2名の追加, ISSN番号の掲載方法を承認した。
 - ・常評は14時から開催する。
 - ・広告2件を受付した。
 - ・2/1～2/15まで一般講演申込み, 2/28まで要旨登録

- とした。
- ・総会等の会場費、託児室関連の予算が報告された。
- 研究会等の協賛について
 - ・国際化学生態学会の開催者より協賛金に対する御礼があった。シンポジアの執筆を依頼する。
 - 入退会の報告
 - ・団体会員の退会があった。
 - その他
 - ・旅費の支払いに関する内規を制定した。
 - ・アメリカ化学会のディビジョンの連絡担当者を決定した。

第201回常任編集委員会 議事要旨

日 時：平成30年1月6日(土) 14時30分-16時30分
会 場：京都大学農学部総合館 応用生命科学専攻第一セミナー室
出席者：12名 欠席者：なし
議 事：

- 1) 投稿規定および投稿細則の改訂
掲載料の値上げ(2018年1月1日から)に伴い、投稿規定、投稿細則を改訂した。書式、体裁について一部修正があった。カラー印刷の費用に関する記載がなかったので追記した。引用文献には論文タイトルを追加してはどうかという意見が多数あった。また原著論文の掲載について現状の6ページから、8ページに増やす意見も出たが、引用文献にタイトルを入れることとともに、ページ数の増加につながり出版費が増える可能性があることから、次回常任評議委員会で確認することになった。
- 2) Executive Editor へのお願い
修正論文が再投稿、査読済みの案件の速やかな対応を要請した。
- 3) 題目審査に関して
J-STAGEの抄録に日本語要旨は掲載されるので、題目審査の確認作業は重要との再認識をした。一方で、JPSの日本語版HPに和文要旨を掲載する必要があるか議論した。日本語のHPでも英文の題目、抄録のままで掲載するので十分ではないかという意見が出た。ただし、会員サービスのことも考慮し、評議委員会で承諾を得ることとなった。
- 4) 受賞論文に関して
これまで受賞論文の著者には、英文、和文ともそれぞれ6ページの原稿を依頼していたが、和文については2ページ以内で執筆を依頼する。平成30年度受賞論文から適用する。
- 5) 読み物企画に関して
新企画として見開きのミニレビューとして「農薬とその

- 周辺」をテーマとし、最近の話題を紹介する。毎号2〜3編の掲載にし、第43巻2号(5/20発行)からの予定で、初回の締切りは3月末とし、投稿締切りは5月10日の予定。多数の投稿申し込みがあった場合は次号へ繰り越す。今後、編集委員へ周知して投稿を募る予定。
- 6) Special Issue について
JPSのVol. 43, No. 3に植物ホルモン関係の論文を集め、Special issueとする。すでに複数編受付け中で、10報程度の掲載を予定している。投稿締め切りは3月末とする。
 - 7) Review article について
現在5編の審査・検討中で、内訳として、2編は審査済み(一つは、Vol. 43 No.1に掲載を予定)、残りの2編は海外の方に執筆依頼中である。さらに海外から投稿希望があった。
 - 8) クラリベイト・アナリティクスへのunsecured PDFの提供依頼について
J-STAGEはセキュリティを外さない方針なので、JPSのunsecured PDFの提供依頼があった。国際文献にも確認のうえ、unsecured PDFを提供することで決定した。
 - 9) その他
Executive EditorがCorresponding authorとして投稿した場合は、Editor-In-Chiefが対応できるが、Editor-In-ChiefがCorresponding authorとして投稿する場合には、副委員長など設置して対応する必要がある、編集規定を見直す必要性について検討された。
 - 10) 次回常任編集委員会は、5月の大会前日に編集委員会として開催する予定。

平成30年度 日本農薬学会賞の決定

学会賞受賞者選考委員会で選考された奨励賞、業績賞(研究・技術)の受賞候補者について、評議員(会長、副会長を含む)による無記名投票を行った結果、受賞者が下記の通り決定された。また、編集委員会から推薦され学会賞受賞者選考委員会で選考された論文賞候補についても評議員(会長、副会長を含む)による無記名投票を行い、受賞論文が決定された。

奨励賞

- ・岩船 敬：河川における農薬及び代謝分解物の挙動と生態毒性に関する研究(内閣府食品安全委員会事務局)
- ・片岡 良太：環状ジエン殺虫剤分解糸状菌の探索と分解代謝経路の解明(山梨大学生命環境学部)

業績賞(研究)

- ・田中 啓司：GABA受容体に作用する殺虫剤の代謝、作

用機構および実用化に関する研究 (近畿大学農学部)

業績賞 (技術)

- ・坂 真智子: 残留農薬分析法に関する実用的技術の開発とその普及 (残留農薬研究所)

論文賞

- ・Okishi Mashita, Hikaru Koishihara, Kosuke Fukui, Hidemitsu Nakamura, Tadao Asami: "Discovery and identification of 2-methoxy-1-naphthaldehyde as a novel strigolactone-signaling inhibitor" 41, 71-78 (2016)

会 員 動 静

(平成29年9月1日～平成29年11月30日)

入会

正会員

鈴木 潤 柳澤 和幸 清水 寿明 守屋 有香
若林 仁 松田 英樹 志野真実子 池田 淳一

学生会員

義本 裕介 岩崎 愛 安井 令 松原 祐佳
中橋 和之 橋本 里奈 中田 隆 風間 春奈
越智 良太 持田 真歩 新名 清輝 田中 善將
室川 哲郎 白川 和泉 伊左治俊策 青木 智史
朽尾 紗央 賤前 穂波

(受付順)

退会

正会員

市原 勝 中村 知史 小倉 一雄 重松 由夫
首藤 義博 飛野 敏明 渡邊 敦 齋藤 真澄
河内真一郎 藤岡 智則 小西 康子 BOULANGE, Julien
坂本 修 高久 朋之 坂田 和之 中谷 有里
垣谷 彩乃 岩渕 彩 眞境名元次 氏田 夢斗

維持会員

住化グリーン株式会社

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催, 共催, 協賛, 後援する会議等

2018年

3月

25日(日)～27日(火) 第62回日本応用動物昆虫学会

主 催: 日本応用動物昆虫学会

会 場: 鹿児島大学 [〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号]

U R L : <http://odokon.org>

25日(日)～27日(火) 平成30年度日本植物病理学会大会

主 催: 日本植物病理学会

会 場: 神戸国際会議場 [〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1]

U R L : <http://www.ppsj.org/index.html>

28日(水) 第28回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム

主 催: 日本植物病理学会, 殺菌剤耐性菌研究会

会 場: 神戸大学大学院農学研究科・農学部C101 [〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1]

U R L : <http://www.taiseikin.jp/>

4月

14日(土)～15日(日) 日本雑草学会第57回大会

主 催: 日本雑草学会

会 場: 東京農工大学農学部 府中キャンパス [〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8]

U R L : <http://wssj.jp>

5月

25日(金)～27日(日) 日本農薬学会第43回大会

主 催: 日本農薬学会

会 場: 秋田県立大学 (秋田キャンパス) [〒010-0195 秋田県秋田市下新城野宇街道端西241-438]

U R L : <http://pssj2.jp/congresses/43/taikai43.html>

26日(土) 第35回農薬生物活性研究会

主 催: 日本農薬学会, 農薬生物活性研究会

会 場: 秋田県立大学 (秋田キャンパス) [〒010-0195 秋田県秋田市下新城野宇街道端西241-438]

U R L : <http://pssj2.jp/congresses/43/taikai43.html>

27日(日) 第15回農薬バイオサイエンス研究会

主 催: 日本農薬学会, 農薬バイオサイエンス研究会

[〒010-0195 秋田県秋田市下新城野宇街道端西241-438]

会 場: 秋田県立大学 (秋田キャンパス)

U R L : <http://pssj2.jp/committee/bioscience.html>

10月

10日(木)～12日(金) 第41回農薬残留分析研究会

主 催: 日本農薬学会, 農薬残留分析研究会

会 場: 長崎ブリックホール [〒852-8104 長崎県長崎市茂里町2-38]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/zanryu/zanryu41.html>

18日(木)～19日(金) 第38回農薬製剤・施用法研究会

主 催：日本農薬学会，農薬製剤・施用法研究会

会 場：ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター [〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1-1-20]

U R L： <http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai38.html>

11月

8日(木)～9日(金) 第36回農薬環境科学研究会

主 催：日本農薬学会，農薬環境科学研究会

会 場：ホテルクラウンパレス甲府 [〒400-0862 山梨県甲府市朝気1丁目2-1]

U R L： <http://pssj2.jp/committee/environment.html>

8日(木)～9日(金) 第33回農薬デザイン研究会

主 催：日本農薬学会，農薬デザイン研究会

会 場：ホテルアンビシア松風閣 [425-0012 静岡県焼津市浜当目海岸通り星が丘]

U R L： <http://pssj2.jp/committee/design.html>

「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ 改訂4版2018」出版のご案内

本書の初版が出版された2003年頃、輸入冷凍作物からの残留農薬検出や無登録農薬の使用問題等により、農作物等食品の安全性に対する懸念から残留農薬検査の需要が飛躍的に伸びました。それに伴い、農作物の残留農薬検査を実施する検査機関も大幅に増加しましたが、同時に分析結果の信頼性に疑念を抱かせるような事例も増加しました。このような事情に鑑み、日本農薬学会では農薬残留分析技術者の資質向上を目的とし、「残留農薬分析セミナー」を開催するとともに、残留分析技術者をサポートできる参考書として本書を刊行し、その後2005年に改訂2版を、2012年に改訂3版を出版してきました。

改訂3版の出版以降、農薬登録における作物残留試験の試験例数の見直しが図られたほか、2014年には家畜代謝・残留試験、2015年には急性暴露評価が導入され、更にはCodexの食品分類に基づく作物群登録の導入が進むなど農薬取締行政の国際調和への取組みが加速されつつあります。これに伴い農薬開発に占める残留農薬分析の重要性が一層増大しています。このたび、新たな動向を反映させ、最新の科学的知見を盛り込むよう全文の見直しを行ったうえで、初学者の方にも、より読みやすくなるよう心がけて内容を再整理した改訂4版を出版いたしました。前版と同様に残留農薬分析の基本やノウハウを得るための参考書として、さらに、食の安全に関心をお持ちの幅広い方々に対しても、農薬の規制についての理解の一助となるようご活用頂けると幸いです。なお、定価は3,000円です（送料別）。

購入申込み方法：

メールまたはFAXにて、以下の日本農薬学会事務局に氏名、所属、メールアドレス、電話番号、送付先住所、購入冊数（FAX申込みの場合はFAX番号）等をご連絡下さい。また、メール等の件名には「問答あれこれ購入」と記入して下さい。折り返し請求書（送料を含む）を同封し発送しますので、振込みをお願いします。

日本農薬学会事務局：

〒114-0015 東京都北区中里2丁目28番10号 日本植物防疫協会内

FAX: 03-5980-0282

MAIL: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp

日本農薬学会第43回大会の御案内

日本農薬学会第43回大会を平成30年5月25日（金）から5月27日（日）までの3日間にわたって秋田ビューホテルおよび秋田県立大学（秋田キャンパス）にて開催いたします。本会会員ならびにご関心をお持ちの皆様には、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。植物防疫関係2学会（日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会）および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員の方も本学会会員扱いとなりますので、お近くの関係学会員の方に参加・発表をお誘いいただければ幸いです。また、非会員の方のご参加も歓迎いたします。多数のご参加をお待ち申し上げます。

大会の詳細は日本農薬学会ホームページで随時お知らせいたします。

I. 開催場所

総会、学会賞授賞式、受賞講演、特別講演、懇親会、受賞祝賀会

『秋田ビューホテル』（<https://www.viewhotels.co.jp/akita/>）

航空機をご利用の場合、秋田空港からリムジンバスで「秋田駅西口」下車（所要約35分）。秋田駅西口よりホテルまで徒歩約3分。

一般講演、シンポジウム、ランチョンセミナー、展示会

『秋田県立大学秋田キャンパス』（<http://www.akita-pu.ac.jp/access/index.htm>）

JR「秋田駅」から奥羽本線もしくは男鹿線（下り）で「追分駅」下車（所要約15分）、追分駅から大学まで徒歩約25分。

※「追分駅」行きの列車が少ないため、「秋田駅」から「秋田県立大学秋田キャンパス」までの無料シャトルバスを運行します。後述の東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページからお申し込みできます。

秋田県立大学秋田キャンパスでは、駐車場をご利用いただけます（無料）。

II. 会期および日程

平成30年5月25日（金）～5月27日（日）

月・日	午前	昼	午後	会場
5月25日(金)	総会, 授賞式 受賞講演		受賞講演, 特別講演 懇親会・受賞祝賀会	秋田ビューホテル
5月26日(土)	一般講演	ランチョンセミナー	一般講演 シンポジウム	秋田県立大学秋田キャンパス
5月27日(日)	一般講演	ランチョンセミナー	一般講演 シンポジウム	秋田県立大学秋田キャンパス

常任評議員会, 評議員会および編集委員会は, 5月24日(木)にカレッジプラザ(秋田駅から徒歩7~8分)で開催します。詳細については別途ご案内します。

重要な締切日

(平成30年2月1日(木)に申し込みを開始いたします)

一般講演申込締め切り: 平成30年2月28日(水)

講演要旨原稿提出締め切り: 平成30年3月7日(水)

事前参加・懇親会登録締め切り: 平成30年4月16日(月)

III. 特別講演およびシンポジウム

1. 特別講演

- (1) 橋本 勝(弘前大学農学生命科学部)
- (2) 堀 雅敏(東北大学大学院農学研究科)
- (3) 西本 麗(日本農薬工業会会長, CropLife International理事)

2. シンポジウム

- (1) 「未来を照らせ! 新成分・新活性—第35回農薬生物活性研究会シンポジウム—」(農薬生物活性研究会との共催)

平成30年5月26日(土) 13:30~

オーガナイザー: 濱村謙史朗

「フェアリーリング原因物質の生物活性と農業場面への応用(仮)」

静岡大学グリーン科学技術研究所 河岸洋和

「ジャスモン酸類縁体を用いたアザミウマ類への行動抑制による被害抑制効果(仮)」

理化学研究所バイオリソースセンター 安部 洋

「新規殺菌剤トルプロカルブの生物活性(仮)」

三井化学アグロ株式会社 演者未定

「新規殺菌剤ピラジフルミドの生物活性(仮)」

日本農薬株式会社 演者未定

「新規除草剤フェンキノトリオンの生物活性(仮)」

クマイ化学工業株式会社 生物科学研究所 永松 敦

- (2) 「先端技術と農薬の未来像(仮)」(農薬バイオサイエンス研究会との共催)

平成30年5月27日(日) 13:30~

オーガナイザー: 野下浩二

- ・東北大学大学院理学研究科 上田 実
- ・神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 西田敬二
- ・鳥取大学農学部 岩崎 崇
- ・農業・食品産業技術総合研究機構 西ヶ谷有輝
- ・横浜市立大学木原生物学研究所 寛 雄介

IV. ランチョンセミナー

各ランチョンセミナーでは、弁当が定員（70名）まで無料で提供されます。チケットは、当日の朝8:30から受付付近で配布します。

5月26日（土）12:30～13:30

エンヴィーゴ株式会社、日本チャールス・リバー株式会社、農薬工業会

5月27日（日）12:30～13:30

Pharmaron UK／ピオブリッジ株式会社、IES Ltd./株式会社スリーエス・ジャパン、ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

※会場の大学周辺には飲食店はありません。是非ランチョンセミナーをご活用ください。

V. 一般講演申込（平成30年2月1日（木）～2月28日（水）まで）

一般講演は、本学会会員（および冒頭で記載した4学会の会員）で平成30年度分会費納入者に限ります。受付は全てWeb上で行います。一般講演を申し込まれる場合は、1演題ごとに発表代表者が次の1～3を行ってください。

1. 東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページ（<https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/pssj43>）にログインし、「VIII. 参加登録」の項に従って、事前参加登録を行ってください。事前参加登録をされませんと、一般講演の申込はできません。
2. 一般講演申込は平成30年2月1日（木）～2月28日（水）までWeb上で受け付けます。1.の参加登録手続き後に、東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページにログインし、マイページ左側メニューの「一般講演申込」から手続きを行ってください。
3. 一般講演申込手続き後に、「VI. 講演要旨原稿の作成について」の項をご参照の上、講演要旨原稿を作成してください。講演要旨原稿は東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページにログインし、「一般講演申込」でアップロードし提出してください。要旨提出締切は平成30年3月7日（水）です。

※一般講演申込の入力内容について

一般講演申込においては、(1) 演題名、(2) 発表者氏名（連名の場合は全員、発表者本人の前に○をつける）、(3) 所属・連絡先・電子メールアドレス、(4) 分類（下の分類表I、およびIIから選択、記入例：第1希望B-1、第2希望E-5）、(5) 代表者の会員番号をそれぞれご入力ください。期限を過ぎると、これらの内容は変更できません。

(4) の分類は、プログラム編成のために使用します。下記の分類表IとIIを組み合わせた記号で希望分野をご記入ください。

(5) の会員番号は、学会誌が送付された封筒の氏名欄右下に記された6桁の数字です。会員用「お知らせメール」にも記載されています。不明の場合は、日本農業学会事務局（Tel: 03-5980-0281）にお問合せください。

分類I	分類II
A 分子設計	1 殺虫剤
B 天然物化学	2 殺菌剤
C 合成プロセス、グリーンケミストリー	3 除草剤
D 作用機構、抵抗性	4 植物生長調節剤
E 生物活性、検定法	5 防疫薬
F 代謝、分解、動態	6 生物農薬
G 製剤、施用法	7 環境化学物質
H 残留、分析法	8 その他（簡単な内容をご記入ください）
I 環境科学、生態影響	
J 毒性	
K 遺伝子科学	
L レギュラトリーサイエンス	
M その他（簡単な内容をご記入ください）	

VI. 講演要旨原稿の作成について

講演要旨原稿は紙媒体を使いません。『一般講演要旨原稿テンプレート』を大会ホームページからダウンロードし、上書きすることにより要旨原稿を作成してください。作成した要旨のWordファイルおよびそれをPDF化したファイルを、東武トップツア

ズ(株)の事前参加登録ページ (<https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/pssj43>)の「一般講演申込」からアップロードしてください。原稿はそのまま大会事務局でA4版にプリントアウトし、オフセット印刷します。要旨提出期限は平成30年3月7日(水)です。

1. 要旨原稿はMicrosoft Word for WindowsもしくはMicrosoft Word for Macにて、『一般講演要旨原稿テンプレート』に上書きして作成してください。図表を挿入しても差し支えありません。なお、1演題につき用紙1枚に限ります。要旨原稿作成にあたっては、要旨記入例を参照ください。
2. 書式（一般講演要旨原稿テンプレートおよび要旨記入例を参照）
 - a. A4版用紙を用い、上下25mm、左右20mmを余白とした枠内に記入してください。
 - b. 演題および氏名(所属)を最上部に書き、左側には25mm(余白と合わせて45mm)の空白を設けてください。発表者が連名の場合には、講演者の前に○印を付けてください。
 - c. 演題・氏名(所属)・要旨本文および脚注を、それぞれ改行してこの順に書いてください。氏名(所属)と要旨本文の間には、空白行を1行設けてください。
 - d. 全行数(演題、氏名、脚注などを含む)は36行程度で書いてください。
 - e. 要旨本文は、目的・方法・結果および考察に分けて、具体的に書いてください。特に、結果および考察については、その内容を把握できるようにしてください。
 - f. フォントは12ポイントで、演題は太字にしたゴシック体(「MSPゴシック」を推奨)を、それ以外は明朝体(「MSP明朝」を推奨)を使用して下さい。数字やアルファベットは原則として半角文字を使ってください。
 - g. 枠内の最下部から30mmまでの領域内に、脚注として英文による演題と氏名(所属)を書き込んでください。
 - h. 英文で記述する場合は、フォントにできる限り「Times New Roman」を用い、上記の様式に準じてください。
3. 要旨原稿ファイルは、WordファイルおよびそれをPDF化したファイルの両方を提出してください。PDF化に際しては、図表に十分な解像度があるか、文字化けはないか発表者自身で確認してください。
4. ファイル名はそれぞれ(氏名の半角英小文字.doc)、(氏名の半角英小文字.pdf)としてください(「秋田太郎」の場合は、akitatarou.docとakitatarou.pdfとなります)。
5. 大会講演要旨集に掲載された各要旨の著作権(複製権、公衆送信権を含む)は、日本農薬学会に帰属しますので、必ず「共著者全員の同意のもと承認します」の承認ボタンにチェックを入れてください。

VII. 一般講演について

講演はすべて、Microsoft PowerPointで作成されたファイルを液晶プロジェクターで投影して行います。講演時にトラブルが起きないように、下記の注意点を参考にしてファイルの作成と受付を行ってください。使用するノートパソコン(OS: Windows 8)には、最新のMicrosoft PowerPoint Viewer(無料ソフト)がインストールされています。演台上のPCは、補助者はつきませんが、原則として演者の方ご自身で操作していただきます。

ファイル作成の注意点

- (1) 発表1題につき1つのファイルを作成し、ファイル名は講演番号_講演者名(半角英数のみ使用).ppt(あるいは.pptx)としてください。例:A101_Akita.ppt
- (2) 講演時間は1題分(講演12分、討論3分)です。12分の発表時間に適したスライドの枚数にしてください。また、遠距離からも十分見えるよう、文字のサイズやフォントの選択に留意してください。
- (3) スライド中に使用するフォントは、文字化けを防ぐために機種依存文字(①、(株)など)の使用は、極力避けてください。
- (4) 動画等を含む大容量のファイルはトラブルの原因になりますので、極力避けてください。やむを得ない場合は、ファイルを可能な限り圧縮してください。
- (5) 作成されたファイルはWindows版のPowerPointでスムーズにスライドショーができることを確認してください。特にMacintoshをご使用の方は、ファイルをお持ちいただく前に、Windows版のPowerPointで動作確認を各自お願いいたします。特にフォントずれや文字化け、オブジェクトの非認識等にご注意ください。

データ受付の流れ

※発表ファイルの受付は、原則として5月25日(金)(大会1日目)に秋田ビューホテルにて済ませてください。発表者が受付できない場合は、共同発表者の方が代わりに行ってください。発表直前の受付はご遠慮ください。

- (1) 発表用ファイルはUSBメモリに保存してお持ちください。
- (2) 総会会場の受付付近に設置した「発表ファイル受付」にて、ウイルスチェックを行なった後、発表ファイルをコピーしていただき、スライド動作に問題がないかどうかを確認してください。
- (3) 万が一のトラブルに備え、発表用ファイルの入ったUSBメモリは、発表時にご持参ください。
- (4) 大会終了後は、講演会場用PCにコピーされた発表ファイルは大会実行委員立会いの下、確実に削除いたします。

VIII. 参加登録（事前参加登録は平成30年2月1日（木）～4月16日（月）まで）

事前参加登録は、平成30年2月1日（木）～4月16日（月）までWeb上で受け付けます。東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページにアクセスしてください。「初めての方はこちらから」のボタンをクリックし、ID（メールアドレス）、パスワードを登録しログインします。参加者の連絡先入力後、大会参加、懇親会参加、宿泊予約等を行ってください。登録手続き完了後、登録内容をお知らせする電子メール（「ID登録完了のお知らせ」）がお手元に自動配信されます。このメールにより、参加登録手続きの完了と申込内容が確認できます。申込内容を確認後、参加登録ページの「支払」から支払い手続きを行ってください。

支払いはクレジットカードもしくは銀行振込となっております。公費・校費による支払いはお受けできません。

1. 事前登録割引：平成30年4月16日（月）までです。これ以降は、すべて当日受付となりますので、大会会場にてお申込みください。スムーズな当日運営のため、事前登録割引にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。一般講演を行わない参加者の方も、事前登録にご協力ください。

		参加登録費	備考
大会参加費 (講演要旨集1部の代金を含む)	正会員	5,000円	4月16日（月）以降は7,000円
	学生会員	2,000円	4月16日（月）以降は3,000円
	非会員	8,000円	4月16日（月）以降は10,000円
	講演要旨集のみ	3,000円	送料込み（大会終了後発送します）
懇親会費	正会員・非会員	8,000円	4月16日（月）以降は10,000円
	学生会員	3,000円	4月16日（月）以降は3,000円

※植物防疫関係2学会（日本植物病理学会・日本応用動物昆虫学会）および日本雑草学会と植物化学調節学会の正会員・学生会員の方も本学会会員と同じ参加費です。

2. いったん納入された参加登録費・懇親会費は返金いたしません。
3. 大会参加登録費用に相当する領収書（参加登録費・懇親会費）は、大会当日に参加証と一緒にお渡します。
4. 事前参加登録し、参加登録費をお支払いいただいた方は、事前参加登録ページの大会参加証引換券発行ページから大会参加証引換券を印刷できます。その引換券を印刷して、学会当日、大会受付へ提出ください。参加証を引き換えにお渡します。

IX. 宿泊について

東武トップツアーズ（株）の事前参加登録ページから、ホテルの宿泊を予約できますのでご利用ください。

X. 託児室について

お子様をお持ちの会員の方々に安心して大会に参加していただくために、乳幼児を含む未就学児童から小学生（6ヶ月～12歳）までのお子様を大会期間中にお預かりする託児室（無料）を設置いたします。託児室の利用をご希望の方は、下記の大会組織委員会までご相談ください。

秋田県立大学生物活性物質研究室

日本農薬学会第43回大会組織委員会

住所：〒010-0195 秋田県秋田市下新城中野字街道端西241-438

TEL：018-872-1634

E-mail: noqe@akita-pu.ac.jp

担当：野下浩二（のげこうじ）

平成31・32年度日本農薬学会役員選挙について

平成30年10月に平成31・32年度日本農薬学会役員選挙が実施される予定です。今回からは、インターネットを利用するWeb投票システムのみとなります。詳細につきましては、選挙管理委員会発足後に、メールまたは郵便にてご連絡致します。また、次号ニューズレターでもお知らせ致します。なお、本会規定により、本年5月31日の時点で今年度の会費を納入していない方には選挙権・被選挙権が認められませんので、会費を払われていない会員の皆様には会費納入を5月末までに済ませて下さいますようお願い致します。

日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10 日本植物防疫協会ビル5階

電話番号 03-5980-0281

ファックス番号 03-5980-0282

E-mail nouyaku@mocha.ocn.ne.jp

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

TEL: 03 (5980) 0281 FAX: 03 (5980) 0282

E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp